

キャラクターになりきり4コマ漫画作成 自分で演じることが表現力向上に

7月24日、本物の芸術に触れ将来の選択肢を広げてもらいたいと漫画ワークショップが開催されました。幼児から大学生の22名が参加し、自分が作ったキャラクターを演じてから4コマ漫画を制作。小出水心音さんは「上手になりたくて参加した。絵とかいろいろ描けたところが楽しかった」と嬉しそうに答えました。



講師の戸城イチロさんは「描きたいキャラクターになりきり、絵を描くことで表現力が身に着く」とアドバイスしました。

今峰やシャインマスカットなど15種類のぶどうを栽培する浜田観光農園 ☎ 25-2584。しばたて観光農園は ☎ 25-3077。



浜田観光農園としばたて観光農園 花瀬観光農園のぶどう収穫始まる

8月1日、収穫期を迎えた花瀬観光農園の開園式が行われました。式典では未来づくり専門員の伊藤愛さんがフルートでモーツァルトのメヌエットを含む4曲を演奏。花瀬観光農園組合の濱田隆介組合長は「梅雨明けが早かったため糖度が高く、おいしいぶどうが育った」と今年の出来を述べました。9月末まで開園予定。

シンプルなルールで誰もが楽しめるスポーツ 老若男女がモルック大会に熱中

サンドームおおねじめで「錦江町フレンドリースポーツ大会×ニュースポーツ」のモルック大会が7月30日開催されました。チーム戦で木製の棒を使い、木製のピンを倒し点数を競うスポーツで、6歳から85歳の50名が参加。川崎岳くんは「負けたけど楽しかった。次があったら優勝したい」と悔しそうに話しました。



モルックはフィンランド発祥のスポーツ。簡単なルールで激しい運動もないため、誰でも参加できるスポーツです。

今年より町のふるさと納税の返礼品にもなっているレイシ。本釜会長は「子どもたちに喜んでもらえて良かった」と話しました。



もぎたてのレイシ（ライチ）を味見 食育の一環として収穫を体験

7月20日に錦江町レイシ愛好会の本釜愛盛会長（ちかもり）の庭で実ったレイシの収穫体験が行われました。法輪保育園が力を入れている食育の一環として、今回初めて行われ、園児8名が参加。もぎたてのレイシを食べた福岡芽羽ちゃんと福岡煌己ちゃんは「初めて食べた。少しすっぱいけどおいしかった」と笑顔で答えました。

応急手当は救急隊が到着するまでの間にケガや病気が重くならないように行う処置。心肺停止者がいた場合はすぐに手当を行う必要があり、1人1人の行動が大切になってきます。



応急手当の正しいやり方を学ぶ 1人1人の行動が命を救う

7月6日、田代中で応急手当の正しいやり方を学ぶために南部消防署の隊員を講師に迎えて講習会が行われました。事前に動画で心肺蘇生法やAEDの使い方などを学んでいた全校生徒35名と教師10名が参加し、人形を使い救命手当を実践。山下連太さんは「心肺蘇生をやり続けるのは大変だった。将来は救命士を目指したい」と話しました。

第1号誕生「認知症フレンドリー事業所」 登録事業所にステッカーを交付

認知症になっても安心して生活できる町づくりを目指すために7月1日、看護小規模多機能ホーム宝樹を「認知症フレンドリー事業所」に登録し、町地域包括支援センターがステッカーを交付しました。この制度は認知症について正しい理解と認知症の方が生活しやすい工夫などを行う事業所を「認知症フレンドリー事業所」として登録。



宝樹の川口初美代表は「認知症の方が、働くことで生きがいを持ってくださいれば、私たちも嬉しいです」と語られました。

循環型社会とは、限りある資源を効率的に利用し、リサイクルなどで循環させながら、持続して使い続けていく社会のこと。



正しいを楽しいに変えるリサイクルを 持続可能な循環型社会を目指し

7月23日に文化センターでMIRA塾「ドキドキワクワクのリサイクルで捨てない未来を考えよう！」が開催され、オンラインを含め100名を超える方が参加。講師の株式会社「EPLAN」の岩元美智彦会長は「リサイクルは半永久的に行うことが可能。地上のゴミを資源に変え、循環型社会を目指したい」と想いを語りました。